

# 事例 1 組織の利益（多額の寄付金）とCOI

## 組織としての経済的利益の内容

- 大学Aは企業Bから、毎年5000万円の寄付金を獲得している  
→ **大学Aは企業Bと組織的利益相反関係を有している状況**

## 組織的利益相反関係企業との関係でマネジメントが必要となる場面

- 大学Aは、企業Bが製造販売する会計システムの発注を行うことになった

## 組織COIマネジメントの視点

大学等組織は、組織的利益関係にある企業に対して、組織としての社会的使命に反し当該企業を優遇（企業が上場した場合には、大学は利益を獲得する関係があるために、製品を発注している）、あるいは優遇していると思われることがないように、公正な意思決定を行うことが求められる。そこで、以下の点を考慮して、組織COIに対応していく必要があると考えられる。

- ❑ 当該製品の発注行為の必要性
- ❑ 当該製品の発注先選定プロセスの公正性
- ❑ 大学Aの企業Bへの発注行為の妥当性

## 組織COIマネジメントモデル

研究者Xの企業Bへの製品発注の要否・可否を決定する意思決定（決裁等）に際して、配慮すべきこと

- ❑ 当該製品発注先として、B社以外の他社に発注可能か。
- ❑ 当該製品発注について、B社以外に発注可能な場合、B社を選択することの合理的な理由・必要性は認められるか。
- ❑ 当該製品発注について、B社以外に発注可能な場合、B社を選択するに際して競争入札等、必要な手続を採られているか。
- ❑ 当該製品発注について、B社に発注を行う必要性が認められた場合、B社との取引にかかる各種条件（契約条件・経済的条件等）が、他の類似の取引等に照らして合理的な内容か（B社が優遇される内容となっていないか）

## ワンポイント

組織的利益相反関係企業に対して、業務委託するような場合も、類似の対応が必要になると考えられます。

